北國新聞　朝刊　2026年05月13日付　15面 石川北

「地鳴り」冊子に

小中学生の投稿201件まとめる



地鳴りの投稿をまとめた冊子を読む児童　＝羽咋市粟ノ保小

羽咋市教委

羽咋市教委は、北國新聞の投書欄「地鳴り」に昨年度掲載された、市内小中学生の投稿201件をまとめた冊子を作った。市教委は地鳴りを文章力の向上に活用しており、昨年度から始めた教職員の投稿も別の1冊にした。執筆の参考にしてもらうとともに、来校者に取り組みを見てもらう。

小中学生の冊子は「未来への礎」のタイトルで、学校生活や行事に関する投稿が多い。市が国宝化を目指す妙成寺や、今月31日に市内で放鳥されるトキに関する作文もあった。

昨年度からは教職員も投稿しており、日常で感じた思いや教師のやりがいなどをつづっている。校長や外国語指導助手（ALT）を含めた57件の投稿を「響感」のタイトルで冊子にした。

粟ノ保小では、冊子を児童玄関に置いている。佐伯薫乃さん（5年）は「（自分の投稿が）載ったときはうれしかった」と振り返り、坂野幸来さん（4年）は「これからも思ったことを文章にしたい」と話した。

©北國新聞社

北　國　新　聞

石川北　地域のひろば

羽咋の児童 千里浜走る

SSTRとコラボ 元気にマラソン

羽咋市内の4小学校によるマラソンが26日、千里浜海岸で行われ、市内の全児童約650人が潮風を浴びて砂浜を元気に走った。同市で開催中のバイクイベント「SSTR」（北國新聞社後援）とコラボレーションし、児童はライダーが通過するゲートをくぐってゴールした。

市内では羽咋小が2年前から、SSTRとコラボしたマラソン大会を行ってきた。児童らに好評で、市教委が「ほかの児童も千里浜に親しんでほしい」と市内の全校に対象を広げた。

距離は1、2年が800㍍、3、4年が1・4㌔、5、6年が1・8㌔で、児童は保護者やSSTRスタッフの声援を受け、フラッグが並ぶコースを駆けた。6年のトップでゴールした辻田統（すばる）さん（邑知小）は「練習の成果が出せた。風が気持ちよかった」と充実した表情を浮かべた。

スターターは岸博一市長やSSTR主催者の風間深志さんらが務めた。27日は市内の2中学校によるマラソンが行われる。



一斉にスタートする児童　＝羽咋市の千里浜海岸

2026/05/27(水)

北國新聞
石川北 地域のひろば



砂浜を走る生徒＝羽咋市の千里浜海岸

ふるさとの砂浜疾走

羽咋、邑知中がマラソン

羽咋市の羽咋、邑知両中の生徒約420人は27日、千里浜海岸でマラソンに取り組み、ふるさとの砂浜を走った。26日に行われた市内の全児童によるマラソンと同様、同市で開催中のバイクイベント「SSTR」（北國新聞社後援）のゲートをくぐってゴールした。

千里浜海岸を走って愛着を持ってもらおうと市教委が企画した。生徒は潮風を浴び、SSTRの協賛フラッグが並ぶ砂浜を駆けた。

2026/05/28(木)

北　　國　　新　　聞

●学習傾向を分析、秋に試作版導入



アプリの開発に向けて話し合う中山教育次長（左から２人目）と教員＝羽咋市役所



開発するアプリのイメージ

羽咋市教委がＡＩ（人工知能）を活用し、児童生徒の学習を支援する独自アプリの開発に乗り出した。国が教育現場でのＡＩ活用を進める中、単に答えを聞くだけでなく、学習傾向のデータ化・分析などで自立的な学びをサポートする。羽咋市は積極的なデジタル教育に取り組んでおり、これまでの知見を生かした羽咋式のＡＩ活用を探る。今秋に試作版を提供し、来年度の全面導入を目指す。

アプリではＡＩが児童生徒の理解度などを分析し、学習状況によって「次の問題に進む」「復習する」といった助言を行ったりする。家庭学習についても、ＡＩが時間や内容を提案する。教員側のアプリと連動し、子どもの習熟度が一目で分かる仕組みも導入する。

羽咋市は２０２４年度から教育のデジタル化を進め、習熟度に合わせて問題を出題する「ＡＩドリル」のほか、北國新聞電子版をふるさと学習などに活用。学校ごとに使い方を考えており、過去の知見を取り入れてアプリを開発する。

アプリは「スタディＤＩｖＥ（ダイブ）」の名称で、現場の教員のアイデアを取り入れる。昨年度まで羽咋小教頭を務め、ＡＩに知見がある中山信之教育次長兼学校教育課長が中心となって開発を進める。９月に試作版を提供し、２７年度の全面導入を目指す。

2026/06/10(水)

北　國　新　聞

羽咋小へ統合「良かった」100％

旧西北台小児童にアンケート

「活動の幅広がった」

羽咋市羽咋小へ今年度統合した旧西北台小の児童に行ったアンケート調査で、回答した25人全員が「統合して良かった」と答えたことが14日、市教委のまとめで分かった。複数回答で尋ねた良かった点は、全員が「新しい友だちができた」と回答。市教委は、子どもたちがさらに成長できる環境を提供していきたいとしている。

アンケートは3年生以上が対象で、「統合した学校生活は楽しいか」との問いに対し、全体の88％に当たる22人が「そう思う」、3人が「ややそう思う」と答えた。良かった点は行事や児童会活動の活発化、スクールバスでの通学などを挙げる児童が目立った。

保護者に対するアンケートでは「子どもが学校へ行くことが楽しいと感じているか」との問いに対し、全体の96・2％が「そう思う」「ややそう思う」と答えた。統合のメリットは人間関係の広がりや多様な考えた方に触れる機会になるとの答えが多かった。

西北台小出身の本吉茉央莉さん（6年）は「学校の人数が増え、行事などで活動の幅が広がった」と話した。

2026/07/10(金)

北　國　新　聞

トキ学習で佐渡に　羽咋の児童

国特別天然記念物トキと共生を図る新潟県佐渡市の取り組みを学ぶため、羽咋市の小学6年生21人が19日、現地へ研修旅行に出発した。3日間滞在し、5月に羽咋で放鳥されたトキの保護や生息環境の保全などに理解を深める。

研修旅行は市が企画した。初日は稲で絵などを描く「田んぼアート」を見学し、水田に浮かび上がるトキのイラストと「祝　トキ本州へ」の文字に見入った。21日までトキの森公園や野生復帰ステーションなどを訪ね、トキの餌となる田んぼの生き物も調べる。

羽咋市役所で行われた出発式では岸博一市長が激励し、代表の藤井杏さん（邑知小）が「トキと共に生きる未来について考えてきたい」とあいさつした。

出発式に臨む邑知小6年生＝羽咋市役所



2026/08/20(木)

北　國　新　聞

仕事への向き合い方を語る川崎社長
＝羽咋市邑知中



川崎社長「好きを極めて」

リシャールミル ジャパン

羽咋・邑知中で講演

スイス・高級腕時計ブランドの日本法人リシャールミルジャパン（東京）の川崎圭太社長は25日、羽咋市邑知中を訪ね、「世界を見据えたこれからの生きる道」と題して講演した。川崎社長は挫折から立ち直った経験や仕事に向き合う姿勢を語り、「好きなことを見つけて極めてほしい」と全校生徒約90人に呼び掛けた。

同社は9月24日から同市の栄養の台カントリークラブで開催される男子プロゴルフツアー「リシャールミルチャリティトーナメント2026」（北國新聞社特別協力）を主催しており、関連事業として講演が企画された。

川崎社長は能登半島地震の復興支援としてコメ作りに取り組んでいることなども紹介した。同社が手掛けた価格3億4千万円の腕時計も披露され、精巧な造りに生徒が目を見張った。

2026/08/26(水)

北　國　新　聞

カスハラ抑止へ「宣言」

羽咋・ＰＴＡと校長会



宣言のポスターを持つ本多連合会長（右）と濱田校長会長（左）＝羽咋市羽咋小

カスタマーハラスメント　カスタマー（顧客）とハラスメント（嫌がらせ）を組み合わせた造語。顧客や取引先が立場を利用して店員や公務員に暴力を振るったり、理不尽な要求をしたりする行為。心身の不調から退職に追い込まれる人も出ている。

月内に文書配布

客が不当な要求や暴言などで店員を脅かすカスタマーハラスメント（カスハラ）が問題視される中、羽咋市ＰＴＡ連合会と市校長会が学校版カスハラの抑止に向けた「共同宣言」をまとめた。保護者が教員を大声で叱責したり威圧したりしないよう注意を促す内容とし、月内に学校を通じて保護者に文書を配布する。

宣言はカスハラ対策を義務付ける改正労働施策総合推進法が10月に施行されるのを前に、本多亮一連合会長(40)＝羽咋小ＰＴＡ会長＝、濱田弘一校長会長（邑知中校長）らが今年4月から準備を進めていた。

「羽咋っ子未来共創宣言」と銘打ち、「教育に専念できる環境づくり」「建設的な対話による課題解決」など4項目で構成。避けたい行動の具体例として「長時間の拘束」「インターネット上での中傷」「解決を目的とせず、謝罪や処分のみを強く求める行為」などを列挙した。

羽咋市教委によると、現時点で市内6小中学校で保護者から教員へのカスハラ行為は確認されていない。

宣言は8月22日に羽咋小で開かれた臨時代表委員会で内容を了承した。

本多連合会長は「一つの指標が生まれることで教員と保護者のすれ違いがなくなればいい」、濱田校長会長は「子どもが健やかに成長できるよう、同じ方向を向いて教育の場を作るきっかけにしたい」と話した。

2026/09/10(木)